

平成20年7月22日

INES評価について（報告）

○密封された放射性同位元素の所在不明（非破壊検査株式会社京葉営業所）

1. 事象内容

平成20年4月7日（月）7時頃、非破壊検査株式会社京葉営業所内照射室内の保管庫に保管されていた密封された放射性同位元素（イリジウム192放射能370GBq）が収納された非破壊検査装置1台が所在不明となっていることが確認された。

平成20年5月8日（木）に、警察署より容疑者を逮捕し神奈川県横浜市神奈川区幸ヶ谷の滝の川に非破壊検査装置からイリジウム192のホルダーを取り出し捨てたとの自供が得られ、13時40分、遺棄されたイリジウム192のホルダーは発見され回収された。

2. 放射性同位元素の使用施設等に係るINES評価ワーキンググループの検討結果及び放射線規制室によるINES評価の正式値について

1) 放射性同位元素の使用施設等に係るINES評価WGの検討結果
(平成20年6月3日)

- ①被ばくに基づく評価 : 「0」
【判断根拠】: 放射性同位元素は川に遺棄されており、人が立ち入れる場所ではなく、人が近づく最も近い場所における放射線量は $5 \mu\text{Sv/h}$ 以下であり、8日間居続けたとしても公衆の被ばく限度を超えない。放射性同位元素の回収に従事した者の最大の被ばく線量が 0.5mSv 。
- ②環境への影響に基づく評価 : 「0」
【判断根拠】: イリジウム192のホルダーは無傷で回収。
- ③深層防護の劣化に基づく評価 : 「1」
【判断根拠】: イリジウム192のホルダー（線源分類3）は無傷で回収。安全文化の欠如による格上げの必要はない。

放射線規制室が暫定的に評価したレベル1は妥当である。

2) 放射線規制室によるINES評価の正式値（平成20年6月12日）

- ①被ばくに基づく評価 : 「0」
②環境への影響に基づく評価 : 「0」
③深層防護の劣化に基づく評価 : 「1」

評価結果【正式値】: 1